

ひょうし しゃしん みくろ むかし いま あぶらつ
表紙の写真を見比べてみて！昔と今の油津

むかし ほりかわうんが はなみねばし きばし
 昔の堀川運河には花峯橋のほかにも木橋があったんです

①花峯橋：昭和4（1929）年～木桁橋（方杖のない木橋）→昭和30年代？～方杖橋

最初は方杖がない

トラック運搬がメインになって補強のために今の形になったのかも？

昭和28（1953）年頃の花峯橋
 昭和47（1972）年の花峯橋

「後世に伝えたい日南50景」（H13年）より引用
 永村氏より提供

②見法寺橋：大正12（1923）年～木桁橋 → 昭和38（1963）年～今のコンクリートの橋

昭和6（1931）年頃の見法寺橋
 今の見法寺橋

「油津商工案内」（S6年）より引用

③東雲橋：昭和5（1930）年～木桁橋→戦争でなくなる→平成19（2007）年～今の屋根付の木桁橋

昭和13（1938）年頃の東雲橋
 昭和20年代前半の東雲橋跡
 今は「夢見橋」

柴田家所蔵写真
 日南市大観（S25年）より引用

④曙橋：昭和5（1930）年～木桁橋→昭和30年代？方杖橋→昭和41年～今のコンクリートの橋

昭和13（1938）年頃の曙橋
 昭和39（1964）年の曙橋
 今の曙橋

柴田家所蔵写真
 日南市所蔵写真

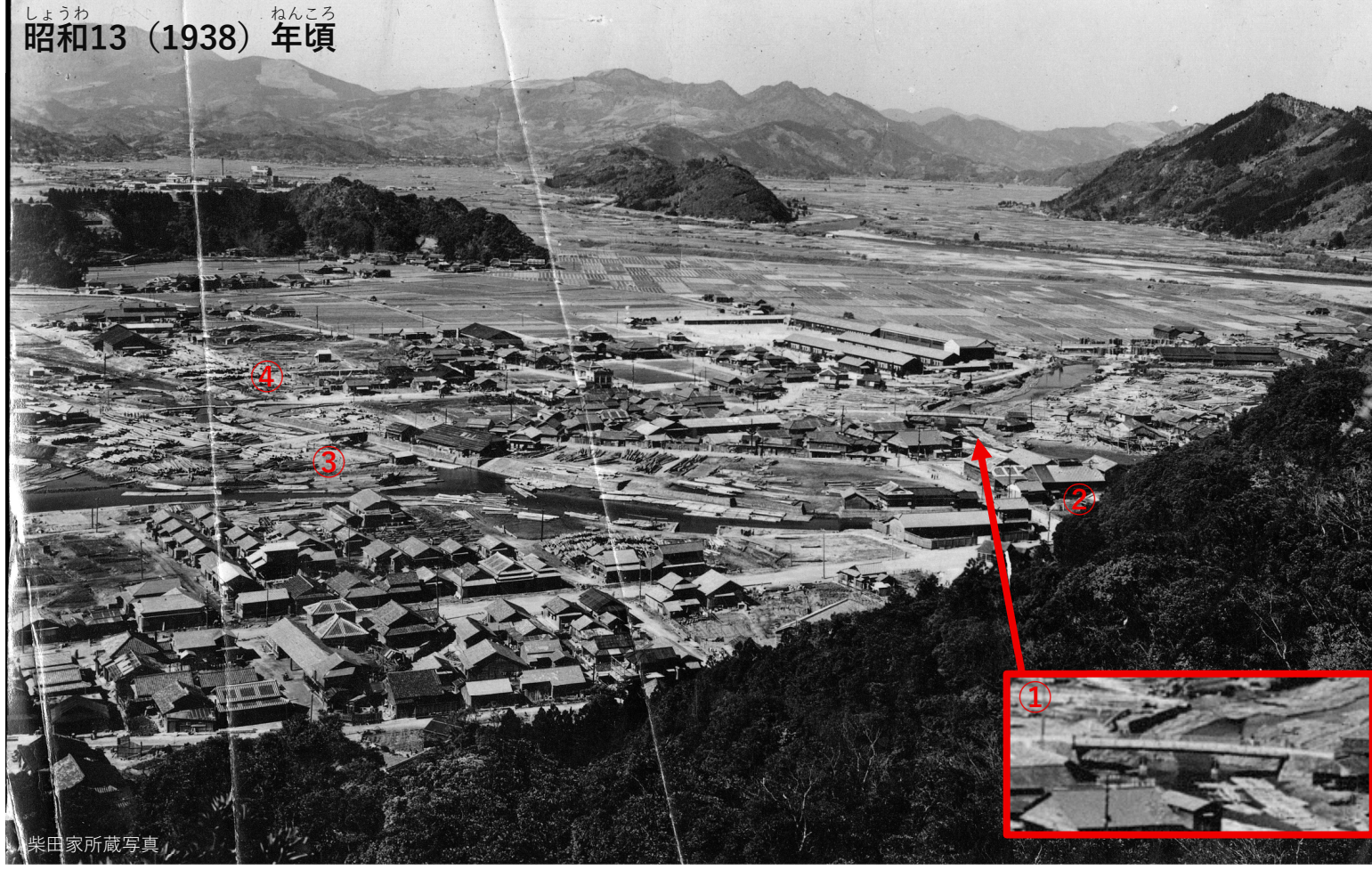
④暁橋：太平洋戦争後（昭和20年代？）木桁橋 → 昭和56年頃？～コンクリートの橋

戦前はまだない

昭和32（1957）年頃の暁橋
 今の暁橋

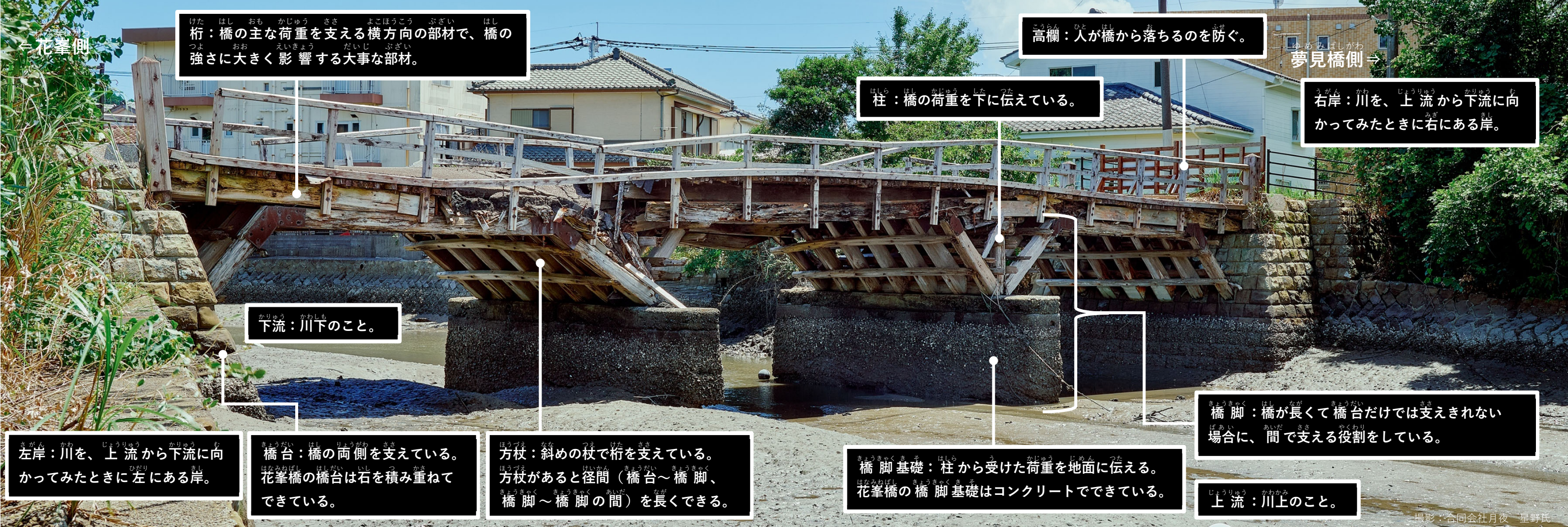
「戦災復興誌」（S32年）より引用
 油津第1号運河（上流35m）昭和25年撮影

堀川運河に昔から木橋のまま残っているのは花峯橋だけ、さらに国内で今も残っている数少ない木造方杖橋



はなみねばし
花峯橋のこと知ってる？





花峯側 ←

夢見橋側 →

桁：橋の主な荷重を支える横方向の部材で、橋の強さに大きく影響する大事な部材。

高欄：人が橋から落ちるのを防ぐ。

柱：橋の荷重を下に伝えている。

右岸：川を、上流から下流に向かってみたときに右にある岸。

下流：川下のこと。

橋脚：橋が長くて橋台だけでは支えきれない場合に、間で支える役割をしている。

左岸：川を、上流から下流に向かってみたときに左にある岸。

橋台：橋の両側を支えている。花峯橋の橋台は石を積み重ねてできている。

方杖：斜めの杖で桁を支えている。方杖があると径間（橋台～橋脚、橋脚～橋脚の間）を長くできる。

橋脚基礎：柱から受けた荷重を地面に伝える。花峯橋の橋脚基礎はコンクリートできている。

上流：川上のこと。

撮影：合同会社月夜 星野氏



「木橋資料館」(https://tbl.tec.fukuoka-u.ac.jp/) より写真引用

平成25（2013）年までは車も通っていた

解体前の花峯橋の写真モデルを作りました
YouTube で動画を公開しています！



QRコードを読み込むか下のURLを入力してリンク先へ
<https://youtu.be/8a48txKxRbl>



解体前、アスファルトが敷かれていた

撮影：合同会社月夜 星野氏

アスファルトになる前は、砂利が敷かれていた
(ヒアリング協力：安藤さん)

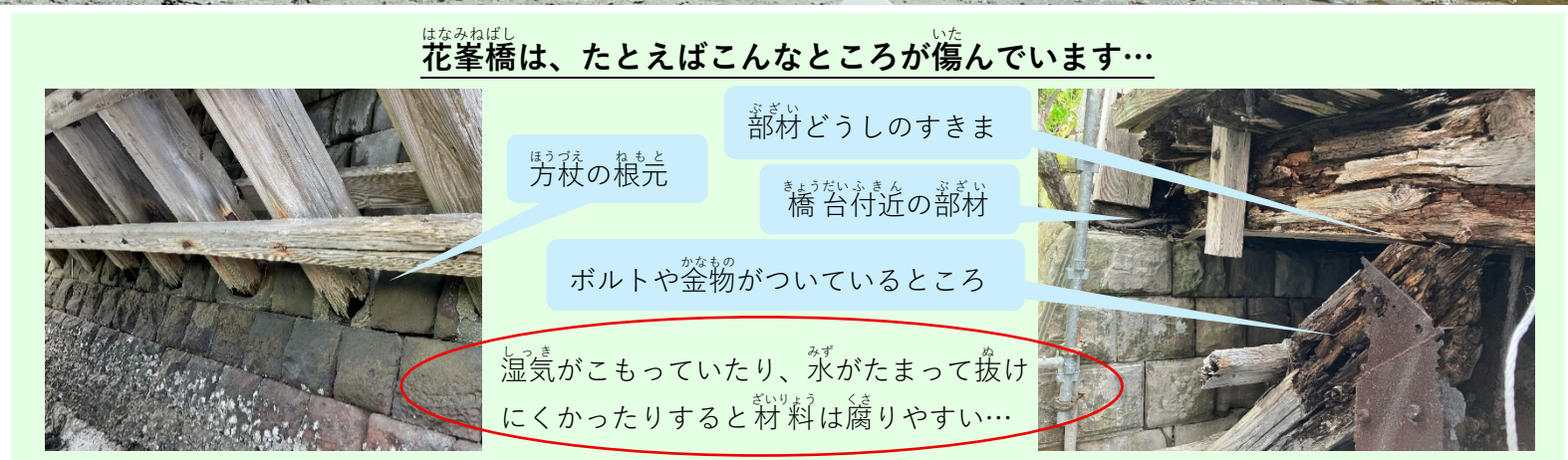


アスファルトを取るとこんな感じ



日南市内で市道のアスファルト化が進むのは昭和50年前後。それまでは砂利道でした。

花峯橋の床材のすきまに見える砂利もその頃のものかも？



花峯橋は、たとえばこんなところが傷んでいます…

- 方杖の根元
- 部材どうしのすきま
- 橋台付近の部材
- ボルトや金物がついているところ

湿気がこもっていたり、水がたまって抜けにくかったりすると材料は腐りやすい…

花峯橋は、国の登録有形文化財です 文化財の“修理”とは…
“単純に傷んだから修理をする”のではなく、しっかり調査して文化財の価値や特徴をとらえて、それらを未来に残し活かす工事を行います。保存して活用していくための修理です。

花峯橋の修理は、まちづくり計画と連携して地域の賑わいをつくろうとしています
令和3（2021）年、戸村サチ子さんが、油津地区の歴史や文化を受けついで、堀川運河周辺の賑わいをつくりだすために役立ててほしいと寄附をしてくれました。そこで日南市では、「日南市油津文化遺産振興戸村基金」を立ち上げてまちづくりの計画をたてました。花峯橋はその計画の1つとして、花峯橋や堀川運河のまわりにもっとたくさんの人が遊びに来て、たくさんの人が笑顔になれる場所にしたいと思っています。

日南市 教育委員会 生涯学習課 電話：0987-31-1145 FAX:0987-24-0987

(調査・設計：株式会社文化財保存計画協会 解体工事施工：株式会社 中幸組)